

日语阅读

杨凤莲

周国明 译著

日汉对照系列读物

3

精选



天津大学出版社

TIANJIN UNIVERSITY PRESS

日汉对照系列读物

日语阅读精选③

杨凤莲 周国明 译著

天津大学出版社

图书在版编目(CIP)数据

日语阅读精选.3/杨凤莲编译.——天津:天津大学出版社,2003.5

ISBN 7-5618-1754-1

I.日… II.杨… III.日语—阅读教学—自学参考资料 IV.H369.4

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2003)第 027448 号

出版发行 天津大学出版社
出 版 人 杨风和
地 址 天津市卫津路 92 号天津大学内(邮编:300072)
网 址 www.tdcbs.com
电 话 营销部:022-27403647 邮购部:022-27402742
印 刷 河北省昌黎县人民胶印厂
经 销 全国各地新华书店
开 本 110mm × 185mm
印 张 11.875
字 数 228 千
版 次 2003 年 5 月第 1 版
印 次 2003 年 5 月第 1 次
印 数 1 - 4 000
定 价 75.00 元(全五册)

序

要想提高日语阅读能力,最好的办法是多读文章、快读文章、读不同体裁的文章。

这一套《日汉对照阅读丛书》就是针对日语学习者提高阅读能力而编写的教材。

本丛书主要供学习日语的读者作自学用书,但是也可以作为课堂教学的教材。

本丛书挑选了政治、经济、历史、文化、地理、气候、风土人情、名胜古迹、日本童话、外国故事、中国故事、神话故事、寓言及日语语言、科普方面的文章。题材广泛,篇目很多。

阅读本丛书既能大大提高日语阅读能力和兴趣,还能获取大量的知识和信息。

为了方便读者,我们将文章译成中文,列出词汇表,每一个生词标有词性及词义。

对语法现象采取汉语释义的方法,以求读者记得住。

由于经验不足,水平有限,丛书中难免有错误和疏漏之处,敬请同行专家、学者及广大读者不吝赐教。

编者

2003.1.

目 录

1.市バスの優先席に思う	(1)
注释	(3)
语法难点注释	(4)
译文 有感于市营公共汽车的“优先席”	(6)
2.父母の体験を聞く	(8)
注释	(11)
语法难点注释	(12)
译文 聆听父母的经历	(14)
3.マラソンの由来	(17)
注释	(19)
语法难点注释	(20)
译文 马拉松的由来	(21)
4.フカ	(23)
注释	(25)
语法难点注释	(27)
译文 鲨鱼	(28)
5.それは残酷か	(30)
注释	(33)
语法难点注释	(34)
译文 这是残酷的吗?	(36)
6.ことばの働き	(39)

日语阅读精选③

注释	(41)
语法难点注释	(42)
译文 语言的功能	(44)
7.鳥の世界	(46)
注释	(50)
语法难点注释	(52)
译文 鸟的世界	(53)
8.ゴキブリ	(57)
注释	(59)
语法难点注释	(61)
译文 蟑螂	(64)
9.仕事の中で学ぶ	(67)
注释	(71)
语法难点注释	(72)
译文 在工作中学习	(74)
10.本とつきあう法	(77)
注释	(81)
语法难点注释	(83)
译文 和书交往的方法	(86)
11.とる漁業から育てる育業へ	(90)
注释	(93)
语法难点注释	(94)
译文 从捕鱼到养鱼	(97)
12.方言の話	(100)
注释	(103)
语法难点注释	(105)

目 录

译文 话说方言	(107)
13. 自然環境の維持	(110)
注释	(114)
语法难点注释	(115)
译文 自然环境的保护	(117)
14. アメリカへわたる	(121)
注释	(127)
语法难点注释	(131)
译文 驶向美国	(133)
15. 北里柴三郎	(138)
注释	(143)
语法难点注释	(145)
译文 北里柴三郎	(148)
16. 情報時代に生きる	(153)
注释	(160)
语法难点注释	(162)
译文 生活在信息时代	(165)
17. 桜	(170)
注释	(175)
语法难点注释	(177)
译文 樱花	(179)
18. 生きがいというもの	(183)
注释	(187)
语法难点注释	(188)
译文 人生的价值	(191)
19. 日本語の特質	(195)

注释	(200)
语法难点注释	(201)
译文 日语的特点	(203)
20. アザラシ	(208)
注释	(211)
语法难点注释	(212)
译文 海豹	(214)
21. 生きぬいた十二日間	(217)
注释	(224)
语法难点注释	(228)
译文 劫后余生的12天	(231)
22. ありがとう	(237)
注释	(239)
语法难点注释	(240)
译文 “谢谢”	(242)
23. 「言う」ことより「する」こと	(244)
注释	(246)
语法难点注释	(247)
译文 与其“说”,“做”更显得重要	(249)
24. 芸術家とはなにか	(251)
注释	(254)
语法难点注释	(256)
译文 什么是艺术家?	(258)
25. 三筋の別れ道	(261)
注释	(281)
语法难点注释	(286)

目 录

译文 三条不同的路	(289)
26. 一房の葡萄	(304)
注释	(315)
语法难点注释	(318)
译文 一串葡萄	(321)
27. 子どもの「脳」に異変が起きた	(329)
注释	(347)
语法难点注释	(353)
译文 孩子的“大脑”里发生了异常变化	(356)

1. 市バスの優先席に思う

ぼくは、学校へ来るときにいつも市バスを利用している。その市バスに、「お年寄りや体の不自由な方に席をお譲りください。」と書いた優先席というものが一つあるのが目につく。学校へ来るときのことだから、学生が多いのだが、最近では、学生の人とその優先席に座っているのをよく見かける。けれど、ぼくが一年生のとき、優先席ができて間もないころは、なぜかみんな優先席に座りたがらず、バスが満員になって他の席が全然空いていなくても、優先席だけが、ぽつんと一つ空いているという不思議な光景を見ることがよくあった。ぼく自身も、なぜかこの優先席に座るのがいやで、今までに一度も座ったことがないのである。

なぜ、みんなが優先席に座りたがらないのかということを考えてみたが、それはたぶん、「優先席は、老人や体の不自由な人の座る席だ。」と決め込んでいるからか、みんなが座らないのに、自分が座るのは恥ずかしいと思っているからだと思う。しかし、このように考えるのは、少しおかしいのではないだろうか。優先席というのは、老人や体の不自由な人に席を譲るというものだから、ふだんはふつうの人が座ってもいいではないかと思うのである。

そこで、なぜみんなが座りたがらないような優先席

日语阅读精选③

ができたのかを考えてみた。これは、やはり老人などをいたわるためだと思うが、それと同時に、若い人が老人にあまり席を譲らないということがあると思う。だから、優先席ができたということは、老人のためにはいいことだったかもしれない。しかし、ほんとうに優先席ができてよかったのだろうかということを深く考えてみると、けっしてよかったとは言えないと思う。

数か月前に、新聞の投書欄を読んでいると、次のような投書があった。

……市バスの優先席に座っている若い人を見たら、そばにいる老人は、「そこはわたしの席ですからどいてください。」と言うべきだ。……

これを読んで、ぼくはおかしいと思った。果たしてこのようなことでいいのだろうか。もし、この投書に書いてあるとおりに老人が言ったとしたら、座っている若い人は、席を立たないわけにはいかないだろう。そして、若い人は「悪かった。」と反省するかもしれないが、あまりいい気持ちはしないだろう。一方、老人は「これで当然。」という気持ちになるだろう。これでは、若い人と老人のあいだには、いたわりの気持ちも、ありがたみの気持ちもなくなってしまう。もし、若い人がすすんで老人に席を譲ったとしたら、両方ともいい気持ちになるだろう。

このようなことを考えていくと、優先席は、老人にとってはいへんいいものかもしれないが、人間関係というものを考えると、むしろないほうがいいと思うので

1. 有感于市营公共汽车的“优先席”

ある。しかし、優先席をなくすためには、若い人がすすんで老人に席を譲るという条件が必要である。この条件が満たされていたなら、最初から優先席などというものはできていなかったと思うから、それを望むことは難しいかもしれない。しかし、若い人が老人をいたわり、老人が若い人にありがたみを感じるという社会ができたとしたら、どんなにすばらしいものかと思うのである。

「新編新しい国語三」より

注 释

いつも	(副)	总是
体 (からだ)	(名)	身体
不自由 (ふじゆう)	(形动)	不自由
目に付く (めにつく)	(词组)	引人注目
間もない (まもない)	(形)	不久
ぽつんと	(副)	孤立貌
不思議 (ふしぎ)	(形动)	不可思议, 奇怪
決め込む (きめこむ)	(他五)	认定, 断定
席を譲る (せきをゆずる)	(词组)	让座
いたわる	(他五)	爱护, 怜悯
どく	(自五)	躲开
いたわり	(名)	爱护, 怜悯
望む (のぞむ)	(他五)	希望

语法难点注释

1 …たがる

(僕が一年生の時、優先席ができて間もないころは、なぜかみんな優先席に座りたがらず、バスが満員になってほかの席がぜんぜん空いていなくても、優先席だけが、ぽつんとひとつ空いているという不思議な光景を見ることがよくあった。)

想要……，愿意……

接在动词和动词型助动词的连用形后面，用于表示对方和第三人称愿望。

佐藤さんはジュースをのみたがっている。

佐藤先生想喝果汁。

2 …のに…

(みんなが座らないのに自分が座るのは恥ずかしいと思っているからだとおもう。)

虽然……却……

彼は体が小さいのになかなか力がある。

他虽然个子小，却相当有力气。

3 …と同時に…

(これはやはり老人などをいたわるためだと思うが、それと同時に、若人が老人にあまり席を譲らないということがあると思う。)

……的同时……

彼は日本語を勉強すると同時に日本経済も研究している。

1. 有感于市营公共汽车的“优先席”

他在学习日语的同时，也研究日本的经济。

4 けっして……ない。

(決してよかったとはいえないとおもう。)

决不……，一定不……

彼は決して間違ったことを言わない人です。

他是一个决不说错话的人。

5 …とおりに…

(もし、この投書に書いてあるとおりに老人が言ったとしたら、座っている若い人は、席を立たないわけにはいかないだろう。)

照……那样，按……的样子，如同……

雑誌にかいてあったとおりに、とても面白い映画です。

正如杂志上所写的那样，是一部很有意思的电影。

6 …としたら…

(もし、この投書に書いてあるとおりに老人が言ったとしたら、座っている若い人は、席を立たないわけにはいかないだろう。)

如果是那样的话，既然是那样的话

もし外国へ留学できるとしたら、どこへ行きたいですか。

假如能去外国留学，你想去哪儿？

译文

有感于市营公共汽车的“优先席”

我去上学的时候，总是乘坐市营公共汽车。在市营公共汽车里面，能看到写着“请给老人、身体有残疾的人让座”的“优先席”。因为是上学的时间，所以，学生很多。最近经常看见学生坐在“优先席”上。可是在我上一年级的時候，也就是出现“优先席”不久，大家都不想坐“优先席”。即使公共汽车满员，没有一个空座位，而惟独只有“优先席”孤零零地空在那里。我经常看到这种令人不可思议的情景。我自己也不知为什么讨厌坐“优先席”。到现在为止，我一次也没坐过“优先席”。

我想了想大家为什么不喜欢坐“优先席”呢？大概是因为大家都认定“优先席”是老人、身体有残疾的人坐的座位，或者是大家都不坐，自己坐会觉得不好意思吧。但是这样想是不是有点奇怪。“优先席”是把座位让给老人和有残疾的人，所以平常普通人不是不可以坐的。

因此，我又想了想，为什么会设有大家都不乐意坐的“优先席”呢？我想这是为了照顾老人们而专设的，但是同时有的年轻人不把座位让给老人。因此，设“优先席”对于老人来说，也许是件好事。但是要认真仔细地考虑，设“优先席”是否真的好，我认为绝对不能说好。

几个月以前，我读了报纸的投稿栏，其中有这样一篇文章：

1. 有感于市营公共汽车的“优先席”

……如果看到年轻人坐在市营公共汽车的“优先席”上，站在旁边的老人应该说：“这是我的座位，请让开。”

读了这篇文章，我感到非常奇怪。这样的事情果真发生了的话，好吗？如果正像文章中写的那样老人说了的话，坐着的年轻人大概不得不站起来，并且可能会反省说：“是我不好。”但是他大概不会有什么好的心情。另一方面老人大概会这么想：“这是理所当然的。”这样，在年轻人和老人之间年轻人照顾老人之心，老年人对年轻人的感激之心都没有了。如果年轻人主动把座位让给老人的话，双方都会有好心情吧。

要是这么想的话，虽然“优先席”对于老人来说是件非常好的事情，但是考虑到人与人之间的关系，我认为倒不如没有。但是取消“优先席”，必须有年轻人主动给老人让座的先决条件。如果能达到这个条件的话，从一开始就不会出现优先席这样的座位了。我们预期能做到这样也许很难，但是年轻人照顾老人，老人对年轻人心存感激的社会一旦形成的话，这个社会将会多么美好。

选自《新编新国语》

2. 父母の体験を聞く

父は無口なほうだし、母もあまりおしゃべりをするほうではないが、思い出話などをする時には、時々、戦争の話もまじる。それで、戦争の話はたくさん聞いているので、とても全部は書ききれない。戦争そのものについては、父は海軍だったので、船が沈められて九死に一生を得た話や、その時、戦友が目の前で死んでいった話など、強烈な話はたくさんある。そういう話は、もう書くまでもない気がするので、父の話のなかで、小さなことのようなが、わたしにとっては、なんとなく心に残っていることを一つ書いておく。

田舎育ちで、体もじょうぶであり、泳ぎが得意だった父に赤紙が来て、父は海軍に入った。海軍の訓練では、泳げない者を泳げるようにするために、船のいちばん高い所から、一人ずつ、海へ向かって、むりやりに突き落とすというのがあったそう。父は泳ぎがうまいので落とされはしなかったが、そのかわりに、ひとを突き落とす役をさせられてしまった。

「みんな、体を固くしていてね。それを一人一人……。訓練のなかでは、それがいちばんいやだったよ。」と言う父は、とても気のいい人なのだ。父はあまりいろいろと言わないのだが、わたしは、その時の父はきっと、ひ